

文化芸術によるまちづくり座談会

第4回 座談会
1月19日(月)

町田市文化スポーツ
振興部文化振興課

〒194-8520
東京都町田市森野
2-2-22
TEL: 042-724-2184

どのような経営戦略 が求められるか

第4回座談会

町田市における文化芸術ホールの 経営論について議論がかわされる

2014年度、町田市は、文化芸術によるまちづくりについて、幅広い視野から意見を求めることを目的として、文化芸術によるまちづくり座談会(以下「座談会」という。)を立ち上げました。

1月19日に第4回座談会が開催され、「町田市周辺エリアの特徴」「とるべきホールの経営戦略」といった点で、闊達な議論がかわされました。

「とるべきホールの経営戦略」の議論の中では「ホール経営と合わせて都市の経営についても考えていかなければならない」「市の文化芸術施策に対する政策意図を整理する必要がある」など、今後の市が進む方向性の中でのホールの存在理由を明確にしていくべきであるという見解が示されました。

今後、座談会は、2月に5回目(最終回)が開催される予定です。(全5回)

2015年1月19日に第4回文化芸術によるまちづくり座談会が市役所2階市民協働おうえんルームで開催されました。

当日は、石阪市長、有金副市長、高橋副市長と学識者として市川宏雄氏、文化芸術ホールの施設管理者として伊藤せい子氏、コンサート等の事業運営者として西茂弘氏の合わせて6名と7名の市民傍聴者により開

催されました。

第4回座談会では、①第3回座談会の振り返り、②町田市周辺のエリアの特徴、③町田市のSWOT分析、④とるべきホールの経営戦略、⑤観客動員型経営戦略、⑥芸術創造・発信型経営戦略、⑦市民活動支援型経営戦略がテーマとして設定され、町田市の文化芸術

ホールが目指すべき方向性について、意見交換が行われました。

●前半の主な議題「町田市周辺のエリアの特徴」

はじめに事務局より、町田市を取り巻く広い範囲を南多摩・相模原エリア、都心・郊外エリア、中央本線沿線・東海沿線の3つに分類し、各エリアの地理的特長とホー



石阪丈一市長





市川宏雄座長

ルの設置状況について説明がなされました。南多摩エリアに2000席規模の多目的ホールが多いために競合関係にあること、都心・郊外にはホールが多く、都心からの集客には苦戦するだろうという分析がなされました。

次に、都市政策と文化芸術政策の観点から町田市のSWOT分析の結果が報告されました。町田市は商業が集積し、市内では市民の文化芸術活動が活発であるという強みがある一方、まさにまちに明確なシンボルがないという弱みがあり、周辺自治体に多くの多目的ホールがあることも脅威として整理されました。

委員からは、東京国際フォーラムがコンサートが行われていることを踏ま

町田市SWOTの分析

● 都市政策の観点 ◆ 文化芸術の観点

強み(S)

- 町田駅の乗降客数の多い
- 都内有数の商業集積がある
- 市民ホール、和光大学ポプリホール鶴川、国際版画美術館等の文化芸術資源がある
- ◆ 市民による文化活動が活発
- ◆ 音楽座ミュージカルの拠点である
- ◆ 文化芸術活動を発表する場や機会が確保されている

弱み(W)

- まちのシンボルの不在(まちのイメージを形成するような独自の要素が少ない)
- 市内における交通利便性が低い
- 治安が悪いイメージがある
- 駅周辺の歩行環境の改善が必要
- ◆ 文化芸術活動の担い手の世代交代が進んでいない
- ◆ 市内学校行事と市民ホールの規模が見合っていない
- ◆ 興行主催者が町田市を公演先として選ばない

機会(O)

- 駅前商業地のにぎわい
- 神奈川西部、山梨、静岡からの集客が考えられる
- 多摩都市モノレール延伸は新たなアクセス動線を期待できる
- ◆ 市内・近郊の芸術系大学の集積
- ◆ 映画館などの娯楽施設を求める市民の声が多い
- ◆ 町田駅周辺のライブハウスやジャズバーで定期的にライブが行われている
- ◆ 中学・高校での盛んな芸術教育

脅威(T)

- 周辺自治体で駅前再開発が進んでいる
- 新交通網整備によって市外に買い物客などが流出する
- 急速な高齢化が進んでいる
- 人口流入が減少している
- ◆ 周辺自治体の多目的ホールの集積
- ◆ 町田市以東に演劇専門ホールが集積
- ◆ 京浜エリアにクラシック専門ホールが集積
- ◆ メディアの発達による若者の劇場離れ

え、興行主催者がそれに次ぐ規模のホールを都内に欲しているという現状が指摘されました。その上で、「都内からの集客を図るのであれば近隣ホールとの差別化が必要」であり、席数で優位に立つという考え方が提示されました。

後半では、事務局より、ホールがとるべき経営戦略として、①観客動員型、②芸術創造・発信型経、③市民活動支援型が挙げられ、それぞれ概要が説明されました。

● 主な議題「とるべきホールの経営戦略」



伊藤せい子委員

委員からは戦略①であれば、「集客のコアターゲットとなる地域」を考えるべきであり、駅からのアクセスのよさがポイントとなると指摘されました。また、観客動員を経済的な見返りにつなげるためには、「市内で消費行動をしてもらえ、その仕組みづくりが必要」という意見が示されました。

戦略②では稼働率が上がらないため、経営的な観点からは多目的ホールが望ましいという意見が示されました。また、戦略①をとるならば、「大きなホールが望ましいこと」から戦略②・③は相容れない」という意見が示されましたが、既存の市民活動を踏まえ、既存のホールを活用すること、新しいホールとの役割分担をする必要があると指摘

されました。都市経営・まちづくりの観点から意見が交わされるなか、「土地の制約に縛られること、周辺マーケットを無視することは最も避けるべき」と指摘されました。一方、石阪市長は「都市の活性化による利益を検証した上で、ホールの建設・運営費を検討する必要がある」と応答しました。

最後に市川座長より「ホールとまちづくりを関係づけて考える上で、『市がホールに何を求めるのかを考える必要がある』と総括され、第4回の座談会が終了しました。



西茂弘委員

■ 次回の検討内容(予定)
第5回座談会では、「総括」をテーマとして、町田市に求められる文化芸術ホールの在り方を議論します。